

【第1号議案】

2022年度 特定非営利活動法人京都景観フォーラム 事業報告書

1. 事業の計画に関する項目

定款第5条に記載された各事業について、2023年3月までに、以下の通り実施した。

(1) 特定非営利活動に係る事業

表 事業一覧

事業名 (定款第5条)	プロジェクト名	事業概要
①景観まちづくりについて 市民への情報・交流・啓発事業	情報の提供	市民が主体となって景観まちづくりを進めていくために役に立つ情報を提供した。
	景観についての意識の啓発に関する事業	市民が主体となって景観まちづくりに取り組むにあたっての働きかけを行った。
②地域景観資源の調査・研究	良好な景観の形成に関する調査研究	「景観まちづくり」のベースとなる地域特有の歴史的・文化的な意義を、文献や聞き取り等によって、明らかにする調査や研究を行った。
③景観まちづくりに関する教育事業	地域の景観まちづくりを支援する専門家の育成	地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するために、専門的な知識を有する適切な人材を育成する、京都景観エリアマネジメント講座を実施した。
④地域の景観まちづくりの支援(相談・アドバイス・人材の派遣)	地域サポート活動	市民が主体となって景観まちづくりに取り組んでいくための支援を行った。(活動地域:嵐山、深草、三条通、祇園新橋、笹屋町一丁目、壬生綾西町)
	地域ネットワーク活動支援事業	地域が地域情報の共有や発信を行う取組を支援するために、地域ホームページ運営支援事業を進めた。また、地域景観づくり協議会をはじめとして、景観まちづくりに取り組む地域間のネットワーク形成や交流事業を支援した。
	相談業務	地域で抱える「景観まちづくり」についての課題や疑問について、さまざまな分野の専門家(京都景観エリアマネージャー)がネットワークを組んで、相談に応じた。
	受託事業	地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するため、行政や民間からの業務受託や、専門的な知識を有する適切な人材の派遣をした。
⑤景観まちづくりへの提言	良好な景観形成に向けた提案・提言	屋外広告物、緑地など景観構成要素のあり方や、景観形成の仕組み、制度のあり方など、景観まちづくりに必要な研究・提案を行った。
⑥景観まちづくり推進のための体制づくり	景観まちづくりを支援する専門家のネットワークづくり	エリマネの専門性を高めるための活動を行う。併せてエリマネ相互の情報交流を行い、協働のネットワークづくりの礎とした。
	多様な主体とのネットワークづくり	景観まちづくりを支援する多様な主体とのネットワークを広げた。
⑦その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		

(2) 団体の運営

適切な団体運営をする。

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ① 景観まちづくりについて市民への情報・交流・啓発事業 うち、情報の提供			
	プロジェクト名	広報チーム			
事業内容	目的	京都景観フォーラムの活動情報や、市民が景観をきっかけとして、暮らしやすいまちに対する関心を高め、地域の繋がりを強め、未来へ向けて「京都らしい」「地域らしい」景観まちづくりに取り組んでいくための情報等を、ホームページ、フェイスブック、メーリングリスト、プロジェクト冊子やレポートなどを通じて提供する。			
	概要	一般市民に向け、景観まちづくりに取り組んでいくための情報を発信する。 また、景観フォーラムの活動内容について情報発信を行い、団体の認知を広めるとともに、エリマネ講座等の集客に向けた企画を検討し、実行する。 広報活動を行うために必要なマーケティングや、技術の取得につとめる。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の 人数
広報チーム会議		月 1 回 12 月から月 1 回	事務所	5	
WEB 記事更新、WEB ページ更新、 Facebook、メーリングリスト		適宜		4	
アニュアル・レポート作成		4 月		3	
エリマネ講座 リーフレット制作		適宜		1	
成果	WEB 記事の更新によって定期的な情報発信を行うとともに、これまでに利用してきた Facebook やメーリングリストも活用して活動の周知向上を行った。 ホームページは、構成を再検討し、2023 年 4 月にリニューアル。 アニュアルレポートも広報チームが中心となって作成した。				

写真等



アニュアルレポート 2021

京都景観フォーラム 事業報告書

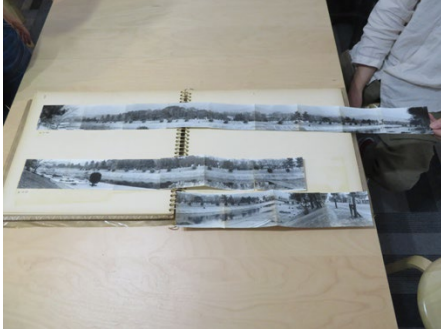
事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ① 景観まちづくりについて市民への情報・交流・啓発事業 うち、景観についての意識の啓発に関する事業 うち、シンポジウム			
	プロジェクト名	総会&活動報告会			
事業内容	目的	市民が景観をきっかけとして、暮らしやすいまちに対する関心を高め、地域の繋がりを強め、未来へ向けて「京都らしい」「地域らしい」景観まちづくりに取り組んでいくための働きかけを行う。			
	概要	1 年に 1 回、NPO の活動報告会を開催する。また、各プロジェクトの進捗にあわせて、テーマを設けたシンポジウムを開催する。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
		総会・活動報告会	5 月 21 日	京都市景観・まちづくりセンター	18
成果	総会に合わせ、2021 年度の活動報告として「景観まちづくりの新しい担い手調査」による事例報告をし、地域組織の担い手不足という課題について、参加者同士で意見交換を行った。				
写真等					

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度				
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ②地域景観資源の調査・研究 のうち、良好な景観の形成に関する調査研究事業				
	プロジェクト名	スマホアプリ『メモリーグラフ』の実証評価				
事業内容	目的	「景観まちづくり」のベースとなる地域特有の歴史的・文化的な意義を、文献や聞き取りによって、明らかにする調査や研究を行い、景観に関する現状を調査、分析し、地域の特性を明らかにして、望ましい将来像を提案する。また、景観的価値を地域や市民が再認識して「景観まちづくり」を推進していくプロセスを研究し、それらの研究や地域で展開しているプロジェクト事業を通して、「景観まちづくり」のノウハウを研究し構築していく。				
	概要	同一構図の写真を撮影し、場所の記憶を時間的に積み重ねていくスマートフォンアプリ『メモリーグラフ』を活用し、地域の人々が地域に眠る地域資源を自ら発見し、アーカイブして情報発信する研究について、研究機関と共に地域へのアプローチを行う。				
	活動	年間活動日は以下の通りである。				
			活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
			打ち合わせ	適宜 夏以降、2ヶ月 に1回程度	ZOOM 等	3
			三条近代建築 WEEK2022	9月27日	京都文化博物館	1
		京都市保存写真の整理	適宜	事務所	3	
		実証実験（ワークショップ）	2月4日	祇園新橋、産寧坂	2	
成果	京都市に保管された景観写真（計35冊。1972年～1988年頃）を借入、整理し内容を確認する。メモグラへの活用について研究。また、メモグラに活用できないものも含め、資料整理をし、今後のアーカイブとする。写真は、京都市市街地景観条例または伝統建造物群保存地区指定の準備として撮影された可能性が高く、これらの取り組みによる現在に至る成果について検証の足がかりとする。 年度末には、バージョンアップしたアプリで実証実験を行った。これまで対応のなかったiOSにも対応し、使いやすくなった。					

京都市保存写真

アルバム「K1~22 鴨川」



ワークショップ (2月4日)



写真等

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度																						
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ③景観まちづくりに関する教育事業 のうち、地域の景観まちづくりを支援する専門家の育成																						
	プロジェクト名	京都景観エリアマネジメント講座																						
事業内容	目的	地域に相応しい景観を保全・創造していく「景観まちづくり」を進めていくためには、地域の歴史や文化、商いや経済状況、人々の暮らし方など、地域固有の多様な情報を読み取り、総合的な見地から理解し、マネジメントを図る専門家が必要である。これを担う専門家を育成するために、基礎講座・実践講座の2年間の「京都景観エリアマネジメント講座」を実施し、「京都景観エリアマネージャー」として登録し、地域の景観まちづくりに寄与する。																						
	概要	<p>本講座は、景観まちづくりに関わろうとするさまざまな分野の専門家を対象とし、1年目は景観まちづくりにおける基礎的な幅広い知識を得るための基礎講座（8か月・全8回）と、2年目は地域での支援やコーディネートなど、より実践的なノウハウを学ぶ実践講座（9か月）で構成する。</p> <p>今年度は、2021年度に新たな形でのスタートとなった講座構成及び運営体制を検証・実施し、その修正・定着を図った。</p>																						
	活動	<p>年間活動日は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>活動日時</th> <th>活動場所</th> <th>従事者の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座運営コア会議</td> <td>適宜開催</td> <td>事務所</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>講座運営全体会議</td> <td>適宜開催</td> <td>まちセン</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>基礎講座運営会議</td> <td>月1回程度</td> <td>事務所、Zoom</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>実践講座運営会議</td> <td>月1回程度</td> <td>事務所、Zoom</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 講座内容は後述</p>			活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	講座運営コア会議	適宜開催	事務所	6	講座運営全体会議	適宜開催	まちセン	21	基礎講座運営会議	月1回程度	事務所、Zoom	16	実践講座運営会議	月1回程度	事務所、Zoom	8
	活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数																				
講座運営コア会議	適宜開催	事務所	6																					
講座運営全体会議	適宜開催	まちセン	21																					
基礎講座運営会議	月1回程度	事務所、Zoom	16																					
実践講座運営会議	月1回程度	事務所、Zoom	8																					
成果	<p>第12期実践講座 2022年6月～2023年2月 受講者10名 第13期基礎講座 2022年7月～2023年2月 受講者23名</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大状況をにらみつつ、感染対策を行った上、リアル開催。基礎講座、実践講座とも受講期間を通し、決まったグループでの活動を深めた。ここに先輩エリマネスタッフが関わることを通し、受講生間コミュニティの形成につながり、受講生間の学び合いの場となった。</p> <p>※1期～13期までの基礎講座受講者数 303名（通年） ※1期～12期までの実践講座受講者数 125名（通年） ※京都景観エリアマネージャー登録者数 86名</p>																							

■基礎講座



スタッフの紹介



講義の様子



フィールドワーク



ワークショップ

■実践講座



嵐山での講義



地域リーダーの講義



ゼミの様子



個人レポート発表

写真等

京都景観フォーラム 事業報告書

【基礎講座】

回	日程	科目	講師	内容	従事者数	参加者数
1	2022年 7月9日(土) 10:00~16:30	基礎理論(1)	堀 繁 氏	「景観」を学ぶ ～景観の良い悪いは、人しだい だろうか?～	15	24
2	8月20日(土) 10:00~16:30	基礎理論(2)	宗田 好史 氏	景観を規制する仕組み、誘導する方策	15	34
		ワークショップ1		まちのことを調べてみよう		18
3	9月17日(土) 10:00~16:30	景観と都市形成	中島 節子 氏	近代の京都と景観	15	39
		フィールドワーク		まちを見てみよう		19
4	10月15日(土) 10:00~17:30	ワークショップ2		地域の景観課題を見出してみよう	15	20
		まちとまちなみ	森重 幸子 氏	現代の社会における京都のまちと住まい		19
			魚谷 繁礼 氏	歴史都市における地域計画と建築計画		19
5	11月19日(土) 10:00~16:30	公共空間のデザイン	山口 敬太 氏	景観デザインと多主体協同のまちづくり	15	24
		ワークショップ3		景観エリアマネージャーの役割とは		20
6	12月24日(土) 13:00~18:30	京の生活文化	町田 香 氏	生活文化と日本庭園	15	23
			谷 晃 氏	茶の湯のチカラ		22
			笹岡 隆甫 氏	伝統文化から受け継ぐ美意識		21
7	2023年 1月21日(土) 10:00~17:00	自然資源と 観光資源の活用	深町 加津枝 氏	京都の自然を活かした景観マネジメント	15	23
			村上 佳代 氏	文化財を活かした観光まちづくり		25
			阿部 大輔 氏	観光再生における景観マネジメント		23
8	2月18日(土) 14:00~17:00	景観まちづくり	高田 光雄 氏	景観政策における「まちづくりアプローチ」	15	22
		修了式				

京都景観フォーラム 事業報告書

【実践講座】

回	日程	科目	内容	従事者数	参加者数
1	2022年 6月18日(土) 10:30~16:30	オリエンテーション	実践講座カリキュラム 景観まちづくりの基本 実践フィールドの紹介とグループ分け	8	10
		グループワーク	地域の基礎資料の収集、課題の想定		
2	7月10日(日) 9:30~17:00	フィールドワーク	堀繁氏(東京大学名誉教授)「景観を理解する」 先生と一緒に実際のまちを歩いて、景観の理解の仕方を現地学ぶ。	8	10
		グループワーク	現地調査、課題設定		
3	8月6日(土) 10:30~17:00	レクチャー	先輩エリマネの活動事例 笠原啓史氏(NPO法人彦根景観フォーラム) 青山優子氏(美山ぎゃらりい 甚弥)	8	9
		グループワーク	課題解決のビジョンとプロセスの検討		
4	9月10日(土) 10:30~17:00	レクチャー	地域のまちづくり事例 長坂生人氏(桂坂景観まちづくり協議会事務局長) 永田一郎氏(祇園新橋景観づくり協議会代表)	8	7
		グループワーク	課題解決のビジョンとプロセスの検討		
5	10月8日(土) 10:30~15:00	発表会&ワークショップ	グループごとに検討した、地域への提案内容について発表しあい、これを題材に地域への支援の在り方等について考える。	8	10
6	11月12日(土) 13:30~17:30	個人レポートゼミ1	修了レポートのテーマ案と構成案、この時点までの成果について、グループでゼミ形式の議論を行う。先輩エリマネスタッフも参加、相談にのる。	8	9
7	12月10日(土) 10:00~12:00	個人レポートゼミ2	修了レポートの中間報告を、ゼミ形式で行う。先輩エリマネスタッフも参加、相談にのる。	8	8
8	2月18日(土) 10:00~12:30	個人レポート発表会 修了式	個人レポートを発表する。	8	10

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動			
	プロジェクト名	嵐山プロジェクト			
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携に広げていく事業を行う。			
	概要	嵐山のまちづくりにおける地域景観づくり協議会の運営支援及び景観に関するルールづくり等の取り組みの支援を行う。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
		定例役員会	月 1 回	嵐山	2 名
事務局会議		月 1 回程度	嵐山	2 名	
	勉強会、ワークショップ等	5 月 1 0 日	嵐山	7 名	
成果	<p>地域景観づくり協議会の意見交換の制度運用の支援を行った。協議会事務局として、フォーラムからエリマネ 1 名を派遣して支援している。民主的な協議会運営の点で課題が生じている。協議会会員への情報共有、意思決定の仕組みを見直すなどの試行錯誤を行っている。</p> <p>2020 年度に対応した大堰川沿いの街灯整備の件から派生して、亀山公園及びその周辺の活用方向について、京都府京都土木、文化財保護課、京都市文化財保護課、景観政策課、風致保全課等と連携し、嵯峨美や京大などの参画も得て、ワークショップを企画、実施した。エリマネさん、実践講座受講生が協力してくれた。</p> <p>夜間景観のあり方について、勉強会を開催した。</p> <p>また、屋外広告物について、一部でルールが守られていない現状や、現在のルールでは地域の魅力向上につながっていない面があることから、屋外広告物に関する嵐山独自のルールを検討すべく、勉強会を開催した。</p> <p>ホームページの改訂作業を支援した。</p>				

京都景観フォーラム 事業報告書

写
真
等



京都大学 深町先生の講演



ワークショップの様子

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動			
	プロジェクト名	深草プロジェクト			
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携に広げていく事業を行う。			
	概要	<p>鴨川運河会議の自立的運営に向けた支援を行う。地域・市民への理解向上に関する従来事業の継続に加え、保全・活用について関係行政部署との協議を進め、協働できる体制を推進する。</p> <p>高松橋ひろばの活用推進に関し、市民団体である高松橋ひろばづくりの会の自立的運営を支援し、地域の若い世代が主体的に活動できるよう支援する。</p>			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
		【鴨川運河会議】			
		一之橋 3D スキャンデータ上映および最新技術勉強会	5 月 27 日	水道局	1
		深草アーカイブウォーキング	5 月 29 日	現地	1
		講演会「写真が語る地域の営み～深草デジタルアーカイブ～」	6 月 11 日	歴彩館	1
		極楽橋、高松橋 竣工 100 周年記念事業	11/23	現地及び深草小学校	3
		講演会「BEACON 2020 の風景 ～昭和 40 年代の深草～」	12/11	伏見区区役所	4
		交流会	2/12	藤森神社	4
		下極楽橋花壇整備活動	不定期 6 回	現地	2
		定例会議	月一回	各所	4
【高松橋ひろばづくりの会】					
ひろば整備活動	不定期 4 回	高松橋ひろば	1		
親子イベント「ひろばであそぼ」	10/29	高松橋ひろば	1		
定例会議	不定期計 4 回	白鳥会館ほか	3		

成果

昨年度行った一之橋の3D スキャンについて、水道局本庁にて建設局担当等も交え共有する機会を設けるなど、行政各部署との連携強化に努め、ドローンによる撮影の継続協議等にもつながっている。並行して、極楽橋・高松橋が竣工 100 年を迎えるに当たっての記念事業、美学の視点からみた風景についての講演会を行うなど、文化資源として鴨川運河の価値を考え、広める活動を行った。また、放棄されていた下極楽橋周辺花壇の整備を行うとともに、その持続体制を模索している。

高松橋ひろばづくりの会でも継続的に高松橋ひろばの整備活動を行った。雨天のため、企画していた 2 つのイベントが中止になったものの、近隣の親子向け向けイベントを 1 回開催し、「自分たちのひろば」との認識を広める活動を行った。



■ 鴨川運河会議：3D スキャン上映・勉強会 交流会



100 周年記念事業での展示

講演会

写真等



■ ひろばづくりの会：整備活動

親子イベントチラシ

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度				
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動				
	プロジェクト名	三条通プロジェクト				
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携を広げていく事業を行う。				
	概要	電線地中化・無電柱化とともにみちの在り方・活用を考える多主体によるエリアマネジメント組織の形成、将来ビジョンの策定に関する支援を行う。（※1まちとみち） また、「京の三条まちづくり協議会」の地域景観づくり協議会による意見交換会の運用支援や、近代洋風建築への理解向上、ネットワーク化へ向けた活動を支援する。（※2近代建築）				
	活動	年間活動日は以下の通りである。				
	活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業形態
	定例会議	月に一度	河合塾	4	協議会全体	支援参加
	運営会議	月に一度	三条事務局など	3	協議会全体	支援参加
	景観まちづくり委員会幹事会・および地域景観づくり協議会意見交換会	基本的に月に2回	三条事務局など	3	協議会全体	支援参加
	京都歴史文化施設クラスター実行委員会	月に一度	京都文化博物館	2	協議会及び姉小路・文博	企画検討支援
	三条通エリアマネジメント検討会議調整会議	必要に応じ随時	三条事務局、Zoom 他	3	協議会全体	支援参加
	三条通エリアマネジメント検討会議推進会議	月に一度	三条響他	2	協議会全体	支援参加
	清掃活動	月二回	三条通界限	2	協議会全体	支援参加

京都景観フォーラム 事業報告書

活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業形態
※1 まちとみち					
三条通まちづくり社会実験 2022 その①「三条通で座ってみよし」	6月 7～12日	三条通界限	3	1000名以上	企画運営支援
まちカフェ 62 「みんなで考える三条通と博物館」	7月 18日	京都文化博物館	8	参加者約40名	企画運営支援
まちカフェ 63 近世の絵図から読み解く道路空間の使い方	8月 11日	京都文化博物館	9	参加者約40名	企画運営支援
三条通まちづくり社会実験 2022 その②「三条通でファーマーズマーケットをやってみる」	8月 13～14日	栲山音前	3	約50名	企画運営支援
まちカフェ 64 「官民連携まちづくりとエリアプラットフォーム」	10月 22日	京都文化博物館	3	参加者約15名	企画運営支援
三条通まちづくり社会実験 2022 その③「三条通で遊んでみよし」	11月 5日～6日	三条通界限	9	1000名以上	企画運営支援
まちカフェ 65 「三条通の未来ビジョン-アクションプランを考えよう-」	1月 28日	京都文化博物館	4	参加者約40名	企画運営支援
まちカフェ 66 「三条通の未来ビジョン-将来像を描こう-」	3月 5日	京都文化博物館	4	参加者約40名	企画運営支援
三条通まちづくり社会実験 2022 その④「三条について話してみいひん？」	3月 17日～19日	京都文化博物館	4	約100名	企画運営支援
※2 近代建築					
近代建築オーナーズ会議	9月 13日	京都文化博物館	2	8名	企画運営支援
近代建築 WEEK2022	9月 27日～10月 2日	三条通界限	6	約300名	企画運営支援

成果

昨年度に引き続き勉強会や社会実験を通し、通り及び建物前を含めた空間を、将来にわたりパブリックに利活用する手法の検討・試行を、地域住民・事業者をはじめ、行政や警察を巻き込みつつ行った。そこから三条通の将来像を描き、それに向けた行動計画の検討・共有を行い、未来ビジョンとしてまとめた。30代～40代の若手が推進メンバーとなり、旧来の枠組みにとらわれない多様な主体がコミットできる体制づくりを並行して支援している。

一方で、近代建築に関する取組みも並行して支援した。子どもを含め、一般市民へのリテラシー向上を目指す「近代建築 WEEK」の実施に加え、三条通の近代建築の所有者・管理者の懇話会を初めて開催した。維持・活用に関する悩み事等の共有を通し、地域の貴重な文化資源群として保全していくネットワークづくりの端緒となった。

※1 まちとみち

●まちカフェの様子



写真等

●社会実験の様子



京都景観フォーラム 事業報告書



●清掃活動



●路上会議



●ファニチャー作成WS



※近代建築

●シンポジウム




●こども探検隊



京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度		
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動		
	プロジェクト名	祇園新橋プロジェクト		
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携に広げていく事業を行う。		
	概要	祇園新橋景観づくり協議会の事前協議の運営、撮影マナー対策、白川南通りの遊歩道化、新橋通りの無電柱化、古写真の収集とメモリーグラフの実証実験等の取り組みについて、助言や支援を行う。		
	活動	年間活動日は以下の通りである。		
		活動内容	活動日時	活動場所
成果	役員会	月 2 回	祇園新橋	1 名
写真等	成果	<p>地域景観づくり協議会制度による事前協議を運用しつつ、施主、事業者との協議のノウハウを積み重ねている。</p> <p>また、撮影マナー対策、白川南通の遊歩道化や新橋通の無電柱化についての取り組みも並行して進めている。</p> <p>2021 年度、メモリーグラフの共同研究の協力地域となった。古写真とこれにまつわるエピソードなどを集める作業を行った。引き続き行政提供も含む古写真で、伝建地区の歴史と現在を表す写真を集め、伝建地区指定 50 周年に向けた素材づくりを進める。</p>		
	写真等			

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動			
	プロジェクト名	笹屋町一丁目町プロジェクト			
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携を広げていく事業を行う。			
	概要	笹屋町一丁目町内会は、長年にわたり町家を中心とした文化や伝統の継承や町内の親睦を深めてきた。しかし、町家両隣の土地利用の変化を契機とし、町家を中心とした西陣らしい景観を保全・創造していくため、2020 年 2 月に地域景観づくり協議会を設立、2022 年 2 月に景観づくり計画書を作成し、京都市からの認可を得た。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
協議会役員会への参加		不定期	上京区	1	
協議会と事業者の意見交換会への参加	不定期	上京区	1		
成果	地域景観づくり協議会の役員会や相談会など、合計 12 回に対応。 2022 年度は、町家に隣接するマンション建設について、事業者との調整を重ねた結果、事業者も地域に配慮しながら計画を進め、現在施工中。 今後は町内会と協議会が連携して町家の今後について検討を重ねる。				
写真等	 <p>2022 年 8 月 20 日 地蔵盆の様子</p>				

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度														
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域サポート活動														
	プロジェクト名	壬生綾西町プロジェクト														
事業内容	目的	京都の景観として重要だと考える地域について、地域や市民の合意形成や仕組みづくり等をサポートし、プロジェクトを組んで関心を促すなど、連携に広げていく事業を行う。														
	概要	<p>壬生綾西町では、2020 年、新選組屯所であった旧前川邸の隣接地にマンション計画が持ち上がったことを契機に、地域のまちづくりを進めようとの動きが始まった。</p> <p>2021 年 7 月、宿泊施設やマンションなど地域の居住環境に影響を与える可能性のあるものについて、住民アンケートを行い、その結果を踏まえて建築ルールをつくるなどの対策を検討しようと、町内会として取り組むことの検討がスタートした。マンション問題に対応した綾西町二組八組のメンバーが中心となっている。</p> <p>今年度は、コロナ禍で一時休止していた活動を再開し、町内会としての活動プロセスの組み立てから始める。</p>														
	活動	<p>年間活動日は以下の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>活動日時</th> <th>活動場所</th> <th>従事者の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民泊などへの対策についての勉強会</td> <td>7 月 18 日</td> <td>アークホテル</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>打ち合わせ</td> <td>6 月 18 日</td> <td>まちセン</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数	民泊などへの対策についての勉強会	7 月 18 日	アークホテル	2	打ち合わせ	6 月 18 日	まちセン	2
	活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数												
民泊などへの対策についての勉強会	7 月 18 日	アークホテル	2													
打ち合わせ	6 月 18 日	まちセン	2													
成果	活動再開にあたって、町内住民を対象にした勉強会を開催し、改めて課題を共有した。これを踏まえて、町内会として取り組む位置づけを行い、町内に担当するチームを編成することになった。															
写真等																

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度					
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域ネットワーク活動支援事業					
	プロジェクト名	地域ホームページ支援					
事業内容	目的	地域がホームページ等を活用して、地域情報の共有や発信を行う取組について、技術的な支援や提案を行う地域ホームページ運営支援事業を推進する。また、地域景観づくり協議会をはじめ、景観まちづくりに取り組む地域のネットワーク形成や交流事業を支援する。					
	概要	景観まちづくりを行う地域や団体のホームページによる情報発信の作成および更新支援を行う。					
	活動	年間活動日は以下の通りである。					
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の 人数		
	成果	<table border="1"> <tr> <td>ホームページ更新</td> <td>随時</td> <td>事務所</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>修徳学区、桂坂学区、松ヶ崎学区、京都市建築協定連絡協議会、地域景観まちづくりネットワークの 5 団体について、引き続き更新支援を行った。</p>			ホームページ更新	随時	事務所
ホームページ更新	随時	事務所	2				
写真等							

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度				
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、地域ネットワーク活動支援事業				
	プロジェクト名	京都市建築協定連絡協議会				
事業内容	目的	地域が地域情報の共有や発信を行う取組を支援する事業として、地域ホームページ運営支援事業を進める。また、地域景観づくり協議会をはじめとして、景観まちづくりに取り組む地域のネットワーク形成や交流事業を支援する。				
	概要	京都市内の建築協定地区の継続的なまちづくりの支援、協定地区間相互の連携の強化、建築協定地区内外への建築協定の普及啓発など連絡会活動の充実及び将来的な自立化に向けた、支援を行う。				
	活動	年間活動日は以下の通りである。				
			活動内容	活動日時	活動場所	従事者の 人数
			役員会	4 月 18 日 5 月 9 日 7 月 26 日 10 月 11 日 12 月 19 日 3 月 8 日	京都市役所	3
			総会	5 月 28 日	まちセン	3
			交流会事業	8 月 28 日 9 月 11 日 11 月 23 日 3 月 5 日 3 月 11 日	ウイングス京都 立志社 一松町 呉竹文化センター 右京ふれあい文化会館	3
			機関紙製作・発行	9 月、3 月	-	4
		打ち合わせ	毎週水曜日	フォーラム事務所	3	
		建築協定審査における専門家サポート事業の検討	9 月 20 日 10 月 27 日 11 月 11 日 3 月 2 日	フォーラム事務所 ほか	6	

京都景観フォーラム 事業報告書

成果

総会や小規模交流会など、コロナ禍のなかで縮小していた事業を会場開催に戻した。各地区の建築協定運営委員会で建築の専門家が必要な場面にアドバイスをするため、エリマネかつ建築士による相談制度を立ち上げるため、モデル事業の検討を始めた。建築協定地区の委員長や住民が小規模交流をする機会を作り、まちあるきや勉強会など、計5回実施した。

総会 (5月28日)



交流会事業 (8月28日)



写真等

交流会事業 (9月11日)



交流会事業 (3月5日)



京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～②のうち、 ④地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、相談業務			
	プロジェクト名	相談業務			
事業内容	目的	地域で抱える「景観まちづくり」についての課題や疑問について、さまざまな分野の専門家（京都景観エリアマネージャー）がネットワークを組んで、相談に応じる。			
	概要	京都景観エリアマネージャーを中心に、相談に応じた専門家を派遣した。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。 （審議会委員等委嘱）			
		活動内容	活動日時	委嘱者	従事者の 人数
		京都市美観風致審査会（広告物専門小委員会含む）	6月9日 8月10日 8月18日 2月3日	京都市	1
		京都市持続可能なまちづくりを支える税財源の在り方に関する検討委員会	3月28日	京都市	1
		京都市公正職務執行審議会委員	1月19日	京都市	1
		京都市市民参加推進フォーラム委員	7月～3月 4回／年	京都市	1
	京都市地域コミュニティ活性化推進審議会	8月19日 1月27日	京都市	1	

京都景観フォーラム 事業報告書

(専門家派遣)			
活動内容	活動日時	活動場所	従事者の 人数
和のまち御室	6月5日	京都市景観・まち づくりセンター	1
下鴨塚本町	7月11日	京都市景観・まち づくりセンター	1
久我御旅町		伏見区久我御旅町	1
(地域等相談)			
活動内容	活動日時	活動場所	従事者の 人数
松ヶ崎	4月13日 6月27日 6月29日 7月20日	左京区 松ヶ崎学区	2
養正市営住宅	7月21日	左京区 養正学区	1
成 果	京都市審議会等では、美観風致審査会に引き続き内藤理事長が入っている。市民参加推進フォーラムでは、森川専務理事が座長となった。地域コミュニティ活性化審議会に黒田事務局長が入った。専門家派遣や、地域等の相談は、継続して、景観やまちづくりの分野を超えて意見やアドバイスをおこなっている。		

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度																																											
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④ 地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣） うち、受託業務																																											
	プロジェクト名	受託業務																																											
事業内容	目的	地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するため、行政や民間から業務を受託したり、専門的な知識を有する適切な人材を派遣する。																																											
	概要	地域が、地域景観づくり協議会、地区計画の策定、建築計画や景観協定の締結など景観まちづくりに取り組む際に、適切な人材を派遣し支援する。また、京都の景観に関わる調査研究事業を受託し、団体の実績とする。																																											
	活動	<table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名</th> <th>契約日・委託期間</th> <th>契約金額</th> <th>発注者</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域主体のまちづくりのリーサー業務</td> <td>契約締結日から 2022 年 3 月 16 日</td> <td>560,000 円 (税込)</td> <td>京都市景観・まちづくりセンター</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>建築協定等を活用したまちづくり支援における連絡協議会の事務局運営支援業務等</td> <td>2022 年 4 月 4 日 契約締結日から 2023 年 3 月 31 日</td> <td>4,656,000 円 (税込)</td> <td>京都市景観・まちづくりセンター</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>近代建築 WEEK 講師派遣等業務</td> <td>契約締結日から 2023 年 3 月 31 日</td> <td>582,950 円 (税込)</td> <td>京都歴史文化施設クラスター実行委員会</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>エリアプラットフォームの構築に係る検討会議の運営支援委託業務</td> <td>契約締結日から 2023 年 3 月 31 日</td> <td>2,000,000 円 (税込)</td> <td>三条通エリアマネジメント検討会議</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>メモリーグラフを用いた京都の町並み変化に関する地域学習教材に関する研究支援</td> <td>2022 年 7 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日</td> <td>651,000 円 (税込)</td> <td>国立情報学研究所</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>祇園新橋撮影マナー対策支援</td> <td>2022 年 4 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日</td> <td>36,000 円 (税込)</td> <td>祇園新橋景観づくり協議会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				業務名	契約日・委託期間	契約金額	発注者	人数	地域主体のまちづくりのリーサー業務	契約締結日から 2022 年 3 月 16 日	560,000 円 (税込)	京都市景観・まちづくりセンター	3	建築協定等を活用したまちづくり支援における連絡協議会の事務局運営支援業務等	2022 年 4 月 4 日 契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	4,656,000 円 (税込)	京都市景観・まちづくりセンター	4	近代建築 WEEK 講師派遣等業務	契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	582,950 円 (税込)	京都歴史文化施設クラスター実行委員会	3	エリアプラットフォームの構築に係る検討会議の運営支援委託業務	契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	2,000,000 円 (税込)	三条通エリアマネジメント検討会議	3	メモリーグラフを用いた京都の町並み変化に関する地域学習教材に関する研究支援	2022 年 7 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日	651,000 円 (税込)	国立情報学研究所	2	祇園新橋撮影マナー対策支援	2022 年 4 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日	36,000 円 (税込)	祇園新橋景観づくり協議会	1					
	業務名	契約日・委託期間	契約金額	発注者	人数																																								
地域主体のまちづくりのリーサー業務	契約締結日から 2022 年 3 月 16 日	560,000 円 (税込)	京都市景観・まちづくりセンター	3																																									
建築協定等を活用したまちづくり支援における連絡協議会の事務局運営支援業務等	2022 年 4 月 4 日 契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	4,656,000 円 (税込)	京都市景観・まちづくりセンター	4																																									
近代建築 WEEK 講師派遣等業務	契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	582,950 円 (税込)	京都歴史文化施設クラスター実行委員会	3																																									
エリアプラットフォームの構築に係る検討会議の運営支援委託業務	契約締結日から 2023 年 3 月 31 日	2,000,000 円 (税込)	三条通エリアマネジメント検討会議	3																																									
メモリーグラフを用いた京都の町並み変化に関する地域学習教材に関する研究支援	2022 年 7 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日	651,000 円 (税込)	国立情報学研究所	2																																									
祇園新橋撮影マナー対策支援	2022 年 4 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日	36,000 円 (税込)	祇園新橋景観づくり協議会	1																																									
成果	京都市や景観・まちづくりセンターなどの受託は、景観フォーラムの収入の大きな部分を占めるが、コロナ禍以降、縮小傾向でもある。 地域や研究機関からの受託も受けている。																																												

事業名	年度	2022 年度		
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ④地域の景観まちづくりの支援（相談・アドバイス・人材の派遣）のうち、受託事業		
	プロジェクト名	機運醸成のための景観まちづくりへのニーズの把握と、その情報共有・交流のあり方の検討業務		
事業内容	目的	地域の住民が主体となった「景観まちづくり」の推進を支援するため、行政や民間から業務を受託したり、専門的な知識を有する適切な人材を派遣する。		
	概要	京都景観ゼミナールの後継事業にあたる。今後の景観まちづくりのあり方が大きく変化していくであろうことを想定して、次代の担い手のあり方を検討するとともに、その新しい萌芽にあたる可能性がある事例に関する調査を行う。		
	活動	年間活動日は以下の通りである。		
			活動日時	活動場所
打ち合わせ		6月9日 7月8日 8月3日 10月4日 12月9日 12月23日 2月10日 3月3日	京都市内	3
ヒアリング	9月21日 9月27日 9月29日 10月28日 10月31日 11月9日 11月15日 1月23日 2月2日	六原学区 修徳学区 不動産業3社 京安心すまいセンター 待賢学区	3	

	成果	<p>昨年度の事例調査の内、2事例について、追加調査を行った。六原学区の菅谷氏が担う機能を分析したことと、宮本町など地域密着型不動産業が果たしている役割についての調査である。また新規事例を1件（修徳学区）調査した。</p> <p>また、これらの情報発信の方策について検討した。</p> <p>定例会の会合に、市民協働担当と地域コミュニティサポートセンターの参画を得て、局をまたがる協力関係がスタートした。</p>
写真等		

京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～⑦のうち、 ⑥景観まちづくり推進のための体制づくり うち、景観まちづくりを支援する専門家のネットワークづくり			
	プロジェクト名	エリマネ研究会			
事業内容	目的	エリマネの専門性を高めるための活動を行う。併せてエリマネとしての人材の共有、協働のネットワークづくりの礎とする。			
	概要	今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況も鑑み、実地（リアル）とオンラインを交えて、エリマネ活動紹介、勉強会、現地視察・研修など、計 5 回の活動を実施した。			
	活動	年間活動は以下のとおりである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	参加者の人数
		■エリマネ現地視察 「京都国際会館と宝ヶ池」	4 月 17 日	京都国際会館 ・宝ヶ池	1 7
		■エリマネ活動紹介 「山間地・過疎地域における地域活性化の取組み」(竹山氏)	9 月 25 日	オンライン (ZOOM)	1 1
		■勉強会 「みんなが暮らしやすい魅力と活力のあるまち」の実現に向けた都市計画の見直しについて(村上氏)	10 月 16 日	景観・まちづくりセンター	1 6
		■懇親会 NP011 周年記念パーティ	11 月 13 日	マッシュルーム	1 3
	■エリマネ現地研修 堀先生と「学び」「歩き」「知る」 伊勢現地研修	3 月 11 日～12 日	伊勢神宮ほか (伊勢市)	1 1	
成果	京都景観エリアマネージャーによる、様々な分野で活躍する仕事（活動）の紹介や、豊かな見識に裏付けされた活動から学ぶことが多く、エリアマネージャー全体のスキルアップにつながる。 また、現地研修や懇親会を通じ、エリアマネージャー同士の交流を深め、ネットワークを拡げる機会となる。				

京都景観フォーラム 事業報告書

■エリマネ現地視察(4月17日)



■勉強会 (10月16日)



■エリマネ現地研修 (3月11日~12日)

写真等



京都景観フォーラム 事業報告書

事業名	年度	2022 年度			
	分類	定款第 5 条①～②のうち、 ⑥景観まちづくり推進のための体制づくり			
	プロジェクト名	多様な主体とのネットワークづくり			
事業内容	目的	地域の景観まちづくりを支援するには、京都景観エリアマネージャーだけでなく、他の専門家や行政、事業者といった多様な主体との連携が必要である。そのため、地域の景観まちづくりに貢献しようとする団体や人材を結びつける橋渡しの役割を担い、ネットワークによる支援の実現に広げていく。また、コミュニティーサポートの仕組みづくりを検討する。			
	概要	京都女子大学の地域連携講座、地域活動入門講座のゲスト講師として講義を行った。また、祇園新橋や七條大橋の活動に京都女子大学の学生に参加してもらった。			
	活動	年間活動日は以下の通りである。			
		活動内容	活動日時	活動場所	従事者の人数
		京都女子大学地域連携講座	5 月 30 日	京都女子大学	1
京都女子大学連携活動入門講座	11 月 15 日	京都女子大学	1		
成果	学生への講義を行い、七條大橋や祇園新橋の清掃活動への学生の参加のほか、エリアマネ講座の受講にもつながっている。				
写真等					

京都景観フォーラム 事業報告書

	年度	2022 年度
	分類	団体運営
内容	目的	各事業を適切に行うためのNPO運営を行う。
	活動	<p>■会議</p> <p>事務局</p> <p>マネジメントチーム会議 月1回 第1土曜日（理事、各事業担当者など12名程度）</p> <p>事務局会議 月2回 木曜日午前（内藤、森川、篁、黒田）</p> <p>広報チーム会議 月2回～月1回（内藤、森川、村井、巽、土谷、黒田）</p> <p>理事会 年2回（4月、9月） 事業報告と会計報告など</p> <p>通常総会 年1回（5月） 決算と計画など</p> <p>◆事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOきょうとグリーンファンド、NPOこどもセンターとシェア ・分担金 家賃22000円+光熱費他 ・きょうとグリーンファンドのひかり回線に増設してもらう方法で、固定電話とWi-Fiの回線を契約。 <p>◆会計・税務など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入（契約、助成金交付決定など）と支出（支払い、領収書）は、経費精算書で提出プロジェクト（地域サポート事業、受託事業等）担当ごとに管理することを基本とする。会計サイクルを、年間3回（8月後半、1月、4月）とする。 ・毎月10日まで講師料源泉納税、毎年12月源泉報告、毎年3月事業税と法人税納税、消費税 ・マイナンバーは、講師謝礼が5万円以上で源泉引く支払いの方対象、鍵のかかる棚で管理

成果	<p>■会員</p> <p>正会員 20名 一般会員 101名 賛助会員 4団体 顧問 3名</p>
	<p>(参考) 地域サポート事業と NPO の関係</p> <p>主催 自主事業を実施する (エリマネ講座、景観サロン他) (責任主体)</p> <p>共催 地域団体と一緒に実施する (責任主体)</p> <p>後援 地域団体主催の事業を応援する (責任主体ではない)</p> <p>協力 地域団体主催の事業に部分的に技術、労務を提供する</p> <p>協賛 地域団体主催の事業に資金、物資を提供する</p> <p>*各プロジェクトから相談、依頼があった後、マネジメントチームで決める。</p> <p>*地域サポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトリーダー (改め、各プロジェクト担当) とは地域をサポートしている人 ・各プロジェクトリーダーの対象は、理事と京都景観エリアマネージャー (それ以外の方が対象となる場合は手続き必要) ・各プロジェクトリーダーの対象となるには、クレドへの同意 (クレドの作成) ・各プロジェクトリーダーの対象となるかどうかは、マネジメントチームで決める